

平成20年第4回中原区区民会議

平成20年度第4回中原区区民会議が開催されました。

会議では区長のあいさつの後、ビデオによる地域の活動事例の紹介、ゲストの方々による講演があり、その後、委員の方々による意見交換が行われました。

会議の内容は次のとおりです。

日時・会場など

平成21年3月19日（木）午後3時15分から午後5時45分まで

中原区役所5階会議室

会議の傍聴人 5名

会議次第

- ・開会
 - ・会議録確認委員の選任
 - ・議題
- (1) 「これからの地域コミュニティづくりを考える」
ビデオによる地域の活動事例紹介
- ア.井田協友会
 - イ.NPO法人グループリビング川崎（COCO宮内）
 - ウ.地域ふれあい“つきやまサロン”
- 「コミュニティを考える視点」
法政大学大学院政策創造研究科教授 武藤博己
(川崎市都市型コミュニティ検討委員会委員長)
- (2) 全体意見交換
- ・課題調査部会委員の改選・選任
 - ・検討テーマ「地域で取り組む放置自転車問題」の取組み状況について
 - ・中原区区民会議中間報告書構成案について
 - ・報告事項『都市計画マスタープラン小杉駅周辺まちづくり推進地域構想』
 - ・その他
 - ・閉会

ゲストの方々による地域の活動事例紹介

NPO法人グループリビング川崎（COCO宮内）原真澄美さんの報告

- ・高齢者のグループリビングを中心に活動している。入居者は現在8人いるが、ひと

りでの生活に耐え切れず、人と一緒に住みたいということで入居されている方が多い。入居者を三、四十人で支えているが、無償のボランティアではなく、入居者から集める家事援助費から時給という形で出ている。

- ・支える方々は、掃除をする人、食事をつくる人、生活のサポートをする人というように、それぞれの特徴ある能力を生かして入居者の生活を支えている。
- ・アトリエ21という趣味の教室ではいろいろな講座が開かれ、入居者と受講者の交流が図られており、高齢者の人たちだけで暮らすのではなく、地域の風を入れていくような活動をしている。

地域ふれあい“つきやまサロン”遠藤敦子さんの報告

- ・平成13年に小学校の附属幼稚園が閉園になり、そこに子どもを通わせていた親たちのOB会がここで何かをしたいということで開設したのが始まり。
- ・住みよいまちづくりは子育てしやすいまちづくりということで、すべての年齢にかかわる健康づくり、心身健康づくりということでスタートした。
- ・高齢者が主体となって活動しているということで、自分たちの健康維持にかかわる勉強会を日本医大や老人病研究会の先生方に協力してもらい実施している。
- ・健康づくりは勉強会だけでなく、社会に出ることなので、ごみ拾いや自然観察に自分たちから出て歩いている活動を続けている。
- ・世代間交流として、隣の小学校のわくわくプラザの子どもたちと親子防犯交流会等の交流を行っている。
- ・活動といっても大げさなものではなく、机を並べて折り紙教室や絵手紙教室等、いろいろなグループがあって、地域の皆さんが集まり活動している。
- ・課題として、若い子育て世代につながりを持っていきたいと思っている。

法政大学大学院政策創造研究科教授 武藤博己さんの報告

- ・コミュニティ問題が出てきたのは昭和44年で、高度成長で都市型社会に変わっていき、人間関係が希薄化していく中で地域の持っている力を発揮させなくてはならないという問題意識から国民生活審議会のコミュニティ問題小委員会が立ち上がり、問題に取り組み始めた。
- ・コミュニティというのは、地域社会、近隣社会ということ、地域に人が住んでいればコミュニティと言ってよいが、やはり人のつながりが必要である。
- ・コミュニティの論点としては、活動の場、人材、お金、連携の4つが考えられる。
- ・活動の場については、コミュニティは小学校区、中学校区単位で取り上げられることが多いが、地域に応じて決めればよい。
- ・コミュニティにはおしゃべりの場が必要であるが、今は昔の井戸端会議のようなも

のがなく、地域のコミュニティが減ってきている。これを今ある中でつくっていく必要がある。

- ・人材については、現在活動している人は楽しく継続できること、また、新しく活動を始めようとする人を温かく迎えることで次の人を養成していくことが重要である。
- ・資金については、お年寄りへの声かけ運動などお金のかからない活動もあるが、放置自転車のように、人海戦術だけでは無理なため駐車場をつくるなどお金の必要な活動もある。
- ・連携については、自治会・町内会の回覧板のように定期的にコミュニケーションをとることが重要。また、コミュニケーションをとるための組織が必要との提言もあるが、運営に時間がかかるなどの意見もあり、地域ごとに考えていけばよい。情報についても、現在は情報過多の時代なので、いかに大事な情報をしっかりと必要なところに届けるかが必要。
- ・コミュニティ力の強化の要素として、人のきずな、問題の共有と解決、公平で民主的な地域の3つがある。
- ・人のきずなについては、人と人が何らかの関係を持っていないとコミュニティにはならない。その第一歩はあいさつから始まるが、お祭り、おしゃべりの会など、いろいろな仕組みをつくって人のつながりを強化していく必要がある。
- ・問題が共有されていなければ同じ力が発揮できないが、地域の問題だと考え、問題が共有できれば、解決につながっていく。
- ・公平で民主的な地域社会のためには、コミュニティの民主的なルールや規範が重要。
- ・コミュニティ力ができたらそれを継続することが大切。それには熱意の伝染が必要。熱意の伝播によって地域社会が活発になっていくのではないか。

活動事例に対する委員からの主な意見・提案

- ・コミュニティに関して行政のかかわりはどの程度期待していいのか。

三鷹市では、行政が出資し、市民も参画してコミュニティセンターを建設して市民団体が運営しており、うまくいっている。川崎市も市民が使える場所をつくっていきこうという動きはある。名称は何であれ、そのような場所は必要だと思う。
- ・高齢化等で熱意には限界があるので、行政がサポートする形が起きればよいのではないか。
- ・コミュニティについては町会も同様のことをやってはいるが、特定のテーマだけで終わってしまう。自由な意見を言い合う中でいいものが出てくるのがコミュニティの基本だと思う。

- ・財源はなくてもコミュニティはできる。子どもを集めて小さなネットワークから始めるのがいいのではないか。
- ・中原区はこれからどんどん人口がふえる。その意味でもコミュニティは必要ではないか。
- ・近所が仲よくすることに尽きる。近所の方々が仲よくしている地域には地域力がある。それを活性化していくことでコミュニティが形成されていくのではないか。そこで重要なのは、人材、場所、資金、タイミング、情報だと思う。
- ・若い世代が地域活動へ参加するようになるためには、参加の必要性がない、余裕がない、時間がないという問題を解決しなければいけない。子どもの遊び場や防災等の問題意識の共有が解決策になるのではないか。
- ・防災、防犯等は町会や行政で行っており、浸透している。趣味や子育ての不安などを話し合えるような場所づくりをすれば、コミュニティがふえていくのではないか。
- ・若い人をどんどん引き込む努力をすべきではないか。
- ・町会の会館等を活用すれば、コミュニティの場所はある。
- ・町会と行政はいろいろなところでつながっている。これらを発展していけば、すばらしいコミュニティができるのではないか。
- ・コミュニティに入りたくても入れない人もいる。そういう人に町会の人たちが親しくしてあげることが必要である。
- ・子ども会は、母親は生活が忙しくて役員になり手がいなくて同じ方がずっとやられている。そういう方に対する応援も必要ではないか。
- ・熱意だけではできない。行政との協働が必要である。
- ・中原区は共同住宅が78.6%という縦社会であるので、そういう中でどうやってコミュニティをつくっていくかが課題と思う。ご意見をお聞きしたい。

マンション内は運命共同体なので問題ないが、地元住民とマンション住民が対立しないような仕組みをつくっていくことが今日的な問題だと思う。

- ・何か問題が起こると周辺住民はすぐ集まるが、問題が解決するとまた散ってしまうので、まちづくり協議会をつくって継続的に問題を解決していく組織をつくっていかないといけない。
- ・情熱があれば99%は続く。コミュニティという形があってもなくても、肩書がなくてもだれでも行けるような場づくりをしていただきたい。
- ・町会の古い方たちは頑固に歴史を守るだけでなく、新しい風を入れることに広い気持ちを持ち、今の時代に合った勉強をしてもらいたい。

検討テーマ「地域で取り組む放置自転車問題」の取り組み状況について

- ・町内会・自治会を初めとした地域によるマナー・モラル啓発活動の推進については、啓発用のチラシを作成して4月上旬に各戸配布する予定である。
- ・駅周辺の商店街における放置自転車対策の取り組みの推進については、新丸子駅前において放置自転車対策として警告札の張りつけを1月に1回、2月に4回、3月に4回実施している。今後も取り組みを継続していく。
- ・地域における放置自転車対策の取り組みとの連携については、新丸子駅の取り組みの支援という形で、物品の貸与、警告札の張りつけなどの取り組みと連携した放置自転車の撤去活動に取り組んでいる。4月6日の春の交通安全キャンペーンにも参加する予定である。各団体においても引き続き積極的な取り組みをお願いしたい。

原委員から報告

- ・ポスター等のチラシについてお手伝いさせていただき、4月に配れるように準備ができている。以前モノクロで配ったときは反応が薄かったので、今度はカラーにしてインパクトを強くしている。また、通信という名前を入れることで継続してお配りするという意味を込めている。ポスターをつくっただけでは実際の効果は出てこないのので、区民会議の皆さんで取り組んでいただいて、広く区民に浸透させていただきたい。
- ・小杉の再開発に加えて横浜線の新駅もでき、自転車における環境が非常に変わってくる。被害者の発想だけでなく、自転車に乗る側も一緒に考えていただいて、もう一步踏み出した自転車の取り組みをお願いしたい。

川連委員から報告

- ・昨年12月2日から新丸子の4つの商店会の会長さんなど五、六名が、毎月区役所が撤去する日を聞いて、前日に自転車を置けない場所であるという警告書を自転車にホッチキスでとめている。最初は放置自転車が231台あったが、現在107台と随分下がってきた。これは、行政側の撤去の時間をずらしていただいたことや3月に入って自転車対策員を新丸子駅周辺に配置していただいた関係もあって大分放置自転車の数が減ってきた。

中原区区民会議中間報告書構成案について

- ・第 章で区民会議の位置づけとか審議の流れ、第 章で検討テーマ、地域の課題の選定経過などについてのまとめ、第 章は具体的な審議の内容という構成を考えている。
- ・第 章の区民会議の一般的な位置づけとか審議の流れについて、案という形で簡単

にまとめているが、第 章、第 章も同様のレイアウト、流れで編集していきたい。

報告事項『都市計画マスタープラン小杉駅周辺まちづくり推進地域構想』

- ・本市の都市計画マスタープランは3層構成としており、小杉駅周辺のまちづくり推進地域構想は3層目に当たる。
- ・小杉駅周辺地区は、広域拠点としてJR横須賀線の新駅の設置を初め、JR南武線の南側における地区計画区域を中心とした計画的なまちづくりが進められている。今後はこれらの地区に加えて、南武線の北側地区やJR南武線南側における大規模工場の跡地等における土地利用の転換などが想定されている。
- ・都市計画マスタープランの中原区構想の策定後、開発エリアの拡大や機能の高度化、複合化等に伴い、駅周辺地区全体のまちづくりの方向性を示すために、市民の意見を反映させ、平成20年の2月に将来構想について策定した。
- ・今回、マスタープランとしての地域構想を定めることによって、将来構想で示したまちづくりの基本方針などを都市計画法上の上位計画として位置づけるものである。
- ・これまでの取り組み経過は、平成20年3月に開催した第36回の都市計画審議会において策定についての諮問し、同時に、素案や案の作成に関する審議を都市計画マスタープランの小委員会に付託している。その審議を踏まえ、素案説明会や素案及び案の縦覧、意見書の募集等、都市計画決定に準じた手続を経た上で、最終的に今年2月16日の第41回都市計画審議会の答申を受けている。
- ・意見募集結果については、素案説明会は平成20年9月16日午後7時から中原区の川崎市総合自治会館で開催し、47名の参加をいただいた。素案説明会の翌日から10月16日までの30日間、市内13カ所及びホームページで素案の縦覧を行い意見書を募集した。その中で20通86件の意見をいただいた。これを29に分類、集約して、それぞれに市の考え方を示して4つの対応方針を定めた。
- ・対応方針 は、内容に反映させたものとして3つの分類に取りまとめた意見について素案の修正をした。その他の意見は既に反映されていることから修正には至っていない。その後、12月11日から25日までの案の縦覧、意見募集を行ったが、意見の提出はなかった。
- ・小杉駅周辺の推進地域構想の内容については、第1部として、策定の趣旨や位置づけ、計画の目標期間や活用方法など都市計画マスタープランの概要を記述している。第2部が、小杉駅周辺の現状として、統計資料や経年地形図などで小杉駅周辺の変遷や人口と世帯数、開発動向など6つの項目を掲げている。第3部は、めざすべき都市像として、まちづくりの基本方針、将来都市整備方針、将来都市

構想図を示している。第4部からが、分野別の基本方針として、土地利用、交通体系、都市環境、都市防災の4つを取りまとめている。第5部は、計画の実現に向けて、まちづくりの推進と評価と見直しの手法や考え方を取りまとめている。

- ・ 今回の構想の策定後は、計画に即して地区計画などの法定計画を定めることにより、適切な土地利用の規制や誘導などを図る指針として有効に活用させていただきたい。
- ・ 今後は、3月31日に告示し、4月1日から各区役所の売店とか本庁の売店などで1部500円で販売する。ホームページでも情報公開している。

竹井副委員長からなかはら地球にいいことプロジェクト検討状況について報告

- ・ 準備会を1月29日と2月25日の2回開催した。毎月最終水曜日夜6時半から開催している。次回は3月25日である。
- ・ 組織をつくってやるのではなく、具体的な活動しながら参加者、団体、ネットワークを広げていきたい。全市的な行動計画に沿って区版としての活動をしていきたい。7月ごろまでをめどに今年度から二、三年の計画ができればいいと思っている。
- ・ 中原区環境推進事業スケジュール(案)は、区役所が今考えている来年度の項目である。
- ・ 具体的な活動案が何点か2回の打ち合わせの中で出ているが、まだアイデアを募集している。